

# おとずれ山の会 だより

第 11 号

森づくりを楽しみながら、自然との共生を考える

## ひのき天板やスツールを展示

10月20日 市原いいでんまつり



市原の「いいでんまつり」にこしにも参加しました。地産地消の収穫祭とあって、地域の農業関連の生産者が消費者と生産物を通じて交流するものですが、天羽田の市有林で活動する「おとずれ山の会」は、「里山からの贈りもの」として、スツールや天板などの木工品や竹炭を出展しました。お客さんの評価もまずまずで、少し元気をいただきました。



また、木の名前当てクイズ「この木なんの木よく見る木」は相変わらず子供たちに人気。チャレンジ賞として準備した 200 枚の「葉っぱのしおり」はほとんどなくなりました。

なお、お隣のブースの「ムサシ屋」さんの輪ゴム鉄砲や凧などにも子供たちが押しかけました。凧は、里山人の高橋さんが考案した中央に穴の開いた凧で、よく上がることで定評があります。この日もほどよい風を受けて青空にぐんぐん昇っていききました。



## ジャックの森の活用

### 里山でフリートキング

9月のある日、ジャックの森の作業の合間に、この森の活用について話し合いを行いました(写真⑤⑥)。そのためにはどのような整備するか、課題は何かなどの自由討議をまとめました(写真⑤⑥)。それによると、「ジャックの森をもっと楽しめる森にしたい」という基本方向に基づき、そのためのさまざまな具体的な取り組みが提案されました。所有者である市原市とも話し合いしっかり連携して進めてゆくことにしています

## “関係人口”って？ 市原でセミナー

災害復旧や里山活動など、自然環境の保全や町おこしに他地域からかわる“人口”を指す

とらえ方。しかし考えてみれば、里山活動などは“まさしく「関係人口」により運営されているわけで、いまさらという感じもします。

「地域おこし」に関連してよく言われる「土の人・風の人」や「若者・馬鹿者・よそ者」も同様な概念ではないでしょうか。いずれにしてもよく理解したうえで、団体の運営に活用できればと思います。(10月22日の市原市NPO協議会主催による「関係人口セミナー」から。写真は、関係人口の定義や災害復興の実例について説明する秋田典子・千葉大園芸学科准教授)



編集・発行:おとずれ山の会 代表:高橋順子

連絡先:高橋和靖(事務局 携帯 090-4735-6504)

〒299-0257千葉県袖ヶ浦市神納2-23-22

Email:kjtaka@kba.biglobe.ne.jp

Blog:「おとずれ山の会」で検索しブログをクリックして下さい